

地域医療の現場から ● 72

今回は、大腸がんのお話をさせて頂きたいと思います。

「ピンクリボン」という言葉を聞いたことのある方は多いのではないのでしょうか。乳がんの正しい知識を広め、乳がん検診の早期受診を推進することなどを目的として行われる世界規模の啓発キャンペーンを言います。

これに対し、最近国内では「ブルーリボンキャラバン」とし



セコメディック病院 外科

て大腸がん啓発キャンペーンが行われています。この啓発キャラバンは、大腸がんの検査・診断、また外科的治療・薬物療法について広く一般の皆様を知って頂くことを目的としています。

日本では推計で男性の約6万人、女性の約4万人、毎年約

大腸がんと「ブルーリボン」

10万人もの人が大腸がんを診断されています。全てのがん患者の約15%と、胃がんに続き2番目に患者数が多いがんとされています。

大腸がんは、運動や食生活による予防効果や、便潜血検査と

いった検診による早期発見で死亡率を減らすことができます。治療の進歩は目覚ましく、着実に生存期間は延長しています。キャラバンは、大腸がんの予防・検診・診断・検査、外科的治療・薬物療法について広く

知って頂くこと、11年より日本各地で市民公開講座を開催しております。

東京医科歯科大学大学院腫瘍外科学(大腸・肛門外科)の石黒めぐみ先生は、ブルーリボンキャラバン活動を行い、全国各地で公演を行っております。以前、私は防衛医科大学校病

医療講演会

「大腸がんについて」
～診断、検査、治療の実際～

医療講演会は終了いたしました。

院で石黒先生と一緒に仕事をさせて頂いた御縁があり、講演資料を快くお借りすることができました。その内容は、一般の皆様を対象に、理解が深まるように工夫されたものでした。

今回7月17日に、その資料に基づいた話を中心として、セコメディック病院の大腸がん治療実績をご紹介したいと思います。少しでも多くの地域の皆様にお越し頂ければ幸いです。

三好正義